

先週の礼拝メッセージ(2022年4月3日) ベン牧師

「赦し合う」 エフェソの信徒への手紙 4:29-32



30節に「神の聖霊を悲しませてはいけません」とありますが、どんな時に聖霊は悲しむのでしょうか。私たちの何が、聖霊を悲しませることになるのでしょうか。

興味深いことに、29節では「悪い言葉を一切口にしてはなりません」と聖書は言っています。他にもヤコブ書に「舌を制御できる人は一人もいません」とあるほどに、私たちは言葉で失敗することの多い者です。そして、言葉を制御するのは自分の力だけでは限界があります。言葉はもともと、コミュニケーションの道具です。

イエス様は「人は自分の話したつまらない言葉についてもすべて、裁きの日には責任を問われる。」(マタイ 12:36)とおっしゃいました。なぜなら、その人の心に中のものが、言葉となってあらわれるからです。

では聖書は、どのような言葉を発するようになって言っているのでしょうか。

「聞く人に恵みが与えられるように、その人を造り上げるのに役立つ言葉を、必要に応じて語りなさい。」(4:29)

スポーツでも教育でも、昔は叱り飛ばすやり方が主流でしたが、今は、一人ひとりの良いところをほめて伸ばすというやり方になっています。人間はどんな人でも、ほめられると嬉しいものです。人を傷つけ壊す言葉ではなく、その人を造り上げる言葉を語る者でありたいと思います。これには、一人一人が意識していなければ、ついつい遠慮がない関係であればあるほど、相手を傷つける言葉を言うてしまうことが起こるのです。

そのためには、心を神様に聖めていただく以外にありません。自分自身が聖霊によって整えられなければならないことです。

思わず突いて出てくる悪い言葉が、相手だけではなく、神の聖霊を悲しませるんだということを、深く心に留めなければなりません。なぜなら、聖霊こそが、私たちが天の御国に行く時、神の裁きの座において、私たちの保証となって下さって、私たちは裁きを免れるのですから。

サタンは私たちが支配したいがために、私たちの感情に働きかけ、怒りや悪口を用いて罪を犯させようとします。しかし聖霊は、私たちが支配で

きる権威を持つお方なのに、そうではなく、愛のゆえに私たちの応答を待っておられ、私たちが聖霊に委ねる時、私たちのうちに満ちてくださるのです。

「無慈悲、憤り、怒り、わめき、そしりなどすべてを、一切の悪意と一緒に捨てなさい。」とあるように、無慈悲などの一切の悪意を捨てて、聖霊に満たされようではありませんか。

そしてさらに、「互いに親切にし、憐れみの心で接し、神がキリストによってあなたがたを赦してくださったように、赦し合いなさい。」と、私たちの歩をさらに進めるようにと促します。それでも人間同士ですから、思い違いや言葉の足らなさなどで、人間関係がギクシャクすることはあるでしょう。だからこそ、「赦し」が必要なのです。それも「神がキリストによってあなたがたを赦してくださったように、赦し合いなさい」というのです。

これはどういう赦しでしょう。イエス様がすべての人の罪を負って十字架にかけ死んでくださいました。イエス様のもとに行くなら、どんな罪でも赦していただけます。ですから、ここでの赦し合うとは、どんな罪も、どんな人も、どんな状況でも、赦し合うということです。

だとしたら、赦せない人などひとりもなく、もし許せないと言う人がいるとするなら、それはその人が赦したくないというだけなのだということがわかります。

聖書はなんと高い水準での赦しを、私たちに求めてくるのでしょうか。

私たちは弱い人間です。感情もあり、傷つきもします。だからこそ、赦すことにおいても、聖霊の助け、満たしが必要なのです。イエス様の十字架は、私の罪の赦しだけではなく、私の心の傷をも癒してくださるのです。この十字架の赦し、癒し、聖霊の助け、満たしを受けているからこそ、私たちは赦し合うことができるのです。それは私たちの「赦します」という決断の一步から始まる神のわざであることを忘れてはなりません。

